

操られた国家：“アメリカの春”はいつくる？

【訳者注】アメリカは世界中の、自分の気に入らぬ国を政権交代によって“民主化”しようとしているが、一番、民主化しなければならないのはアメリカ自身だ、という内容である。しかし、自分自身を「自己批判」によって改革するなどということは、支配階級にはできないから、生まれ変わるためには、一度暴力革命を通過せざるを得ないと思われる。というより彼ら自身が暴力を選ぶだろう。平和的解決などというものは、全く彼らの想定外であろう。暗鬱なビジョンだが、パトリック・ブキャナンも、そういう暗い筋書きを予想していると思われる。「どうしたらあなた方を追い出せるのでしょうか？」(p.3)とは、アメリカのジレンマを言い得て妙である。少なくとも“アメリカの春”への平和的移行などというものがありえないことは、彼らの現在の狂気じみた戦争準備を見ればわかる。

Patrick J. Buchanan

August 13, 2016



「私は、この選挙は操作されるだろうと思っている」と、ドナルド・トランプは、オハイオ州の選挙民と、フォックス・ニュースの Sean Hannity に語った。そしてこれは神経に触れた。

「危険な発言」「有害だ」といった牽制の言葉がメディアから上がった。

トランプは、2016年の選挙結果を“非合法化する”と脅迫している。

なるほど、もし彼がそうするつもりなら、それなりの意味がある。なぜなら、2016年が何を約束したか、そしてそれが、何をもたらすことになりそうかを考えてみるがよい。

この最も長い選挙サイクルが“アウトサイダーの年”と呼ばれているのは正しい。それは経済的ポピュリズムと愛国主義の巨大な波が起こった年だった。74歳の社会主義者上院議員が、ヒラリー・クリントンのそれをはるかにしのぐマンモス群衆によって、予備選挙を燃え上がらせた年だった。

それは非政治家のドナルド・トランプが、彼の最も近いライバルである、自分自身の共和党の一匹狼テッド・クルーズ上院議員とともに、共和党予備選挙を席卷した歴史的転換の年であった。

1 ダース以上の共和党ライバルが、1980年以来の保守の最強メンバーと称して、嗾けられた。今年、アメリカ人民が立ち上がって、アメリカのバスタード牢獄を平和裏に急襲して、体制を引き倒そうとした年だった。

しかし、もしそれがクリントンの王政復古と、同じ旧来のワシントン政治の承認で終わるとしたら、アメリカの民主主義には、何か詐欺的なもの、国家的に腐ったものがあることを意味するのではないか？

2016年が何かを我々に教えたとしたら、それは、もし体制の覇権主義が危機に陥ったら、彼らは凶暴な連帯によって結束して、彼らの勢力や特権や権力の維持を図るだろうということである。

体制のすべての要素——企業、文化、政治、メディアといった要素——が今日、アメリカに向かって最後通牒を突きつけている。

トランプは受け入れられない。

共和党のリーダーたちに指令が発せられて、トランプを放り出せと言っている。さもないと彼らは権力において、道徳的に匹敵する相手とみなされなくなるだろう、ということだ。

これは、共和党のエリートの本質を明らかにするもので、彼らのある者はこうした指令を何とか実行しようとしている——たとえそれが、トランプを生み出した民主的な手続きを、無効にし、流産させることになっても。

しかし否定された体制が誰かに命令するとは、どういうことか？

なぜ逆に、アメリカが命令を発する者でないのか？

特に、共和党の選挙民こそ、その否認され拒否された支配階級にこう言うべきである——「もし我々が投票所であなた方を排除できないのなら、我々は、どうしたらあなた方を、平和的・民主的に排除できるのか？」

トランプを追い出したい？ 我々はどうやったら、あなた方を追い出せるのか？

チェコには“プラハの春”があった。チュニジアとエジプトには“アラブの春”があった。我々に“アメリカの春”がやってくるのはいつか？

イギリスには **Brexit** (EU 離脱) があり、彼らは、ブリュッセルの傲慢な超国家からの独立を宣言した。我々はどうしたら、それよりも強力で、民主主義への移行に抵抗するワシントンという超国家から、自分を解放できるのか？

我々の CIA、各種 NGO、全米民主主義基金 (NED) などすべては、その支配者が我々の気に入らない遠くの国の“政権交代”のために、せっせと働いている。

どうやって我々は、ここ自分の国で、“政権交代”を実現できるのか？

ドナルド・トランプの成功は、メディアのほぼ全面的な敵意、保守メディアの敵意にもかかわらず、ほとんど全面的に彼の挙げた諸問題への、一般大衆の反応によるものだった。

彼は、不法難民は本国へ送り返すべきだと言い、アメリカは国境を守れ、恩赦などなくせ、と言った。彼は、我々に血を流させ破産させる以外に何もしたことの無い戦争から、我々を守る“アメリカ第一”主義の外交政策を求めている。

彼は、人民のアメリカニズムが、国境を超えたエリートのグローバリズムに取って代わり、彼らの K ストリート・ロビイストや議会の水運び人を排する、経済政策を求めている。

彼は **NAFTA** (北米自由貿易協定) や、中国との貿易や貿易赤字を弾劾し、**TPP** (環太平洋パートナーシップ) の拒否を求めている。

選挙戦の終わりまでに、彼は貿易に関する議論には勝っていた。一方、ヒラリー・クリントンは、**TPP** については合意し、**NAFTA** については考え直すと白状した。

しかし、もし **TPP** が、ウォール街の寡頭政治家や、ビジネス・ラウンドテーブルや、米商工会議所の主張——広告料に依存する新聞の合同社説の応援による——に直面して復活するとしたら、選挙の意味はもはや全くなくなるであろう。

そしてもし、世論調査が可能性を示すように、クリントンが選ばれ——**TPP**、恩赦、そして第3世界の人々の無限の流入があったとしたら (彼らは税金を生み出すより消費する)、

2016年はいったい何のためにあったのか？

これが、アメリカの民衆の大多数が、この最も興奮させる大統領選挙で、選挙することによって求めていたものだったのか？

「平和な革命を不可能にする者たちは、暴力革命を不可避なものにする」と、ジョン・F・ケネディは言った。

1960年代と1970年代初期は、アメリカの社会革命の時代だった。ニクソン大統領は、ベトナム戦争の徴兵をやめて終わらせることによって、あるコラムニストが「アメリカの冷却」と呼んだものを支配した。

しかし、もしヒラリー・クリントンが権力を握り、大多数のアメリカ人が予備選挙で拒否した、彼女の現在の方針によってアメリカを率いるなら、悪い月が昇るものと考えねばならない。

そして通りにあふれる新しい抗議者たちは、アイビー・リーグ出身の過剰に恵まれた子供たちではないであろう。

(パトリック・ブキャナンは、3人の大統領へのシニア・アドバイザーを務め、2度、共和党大統領指名の候補者となり、2000年には、改革党 (Reform Party) の指名を受けた。)